

## 日本発ウィーン便り～ウィーンのカフェ活用法

ウィーンのカフェは一種独特です。カフェにもいろいろ種類があって、ケーキがメインのところは Konditorei(コンデイトライ)、コーヒーメインのところは Kafeehaus(カフェーハウス)、紅茶メインのところは Teehaus(ティーハウス)と呼ばれます。まあ、これらの総称を「カフェ」というのですが、メインが何か、ということを除けば、大体同じ。コーヒーとケーキだけではなく、朝ごはんから夕食、夜遅くの軽食までとることが出来るので、旅行者にとっても頼れる存在です。もちろんカフェのご飯といっても、ウィーンの名物料理は大抵頼めるし、基本はレストランと変わらないです。(もちろんコンデイトライなんかではケーキがメインなので、サラダとかサンドウィッチとかスープとか軽食が多いです。)

古くからあるカフェはそれぞれ歴史があって、芸術家が集まるカフェ、画家の集まるカフェ、著名な作家が毎日通ったカフェ、お城や貴族の屋敷を改装したカフェ・・・といろいろです。また伝統的なカフェには世界中の新聞がおいてあるところも多くて、コーヒーを飲みながらゆっくりと新聞を読む人の姿も見られます。ウィーンのコーヒー一杯の値段はそう安いものではないですが、(2-4€くらい)コーヒーいっぱいでも半日過ごしてもいやな顔されることはないです。コーヒーだけではなくて、カフェで過ごす時間も料金に含まれているんですね。

歴史的カフェはどこも天井が高く、邪魔な音楽などは流れていないことが多いです。(あっても邪魔にならない程度。)時々音楽の生演奏が入ったりするのも何だかウィーンらしいです。

カフェのお作法を一つ。

入り口を入ったら、適当にあいているテーブルに座ってください。(もちろん順番待ちの場合は順番が来るまで待ってくださいね。)

冬など、コートがある場合は、丸めて椅子の上に置くのではなく、コート掛けを使ってください。



するとそのテーブル担当の Ober(オーバー: ウェイターさんのことです) がやってきます。注文の内容を告げます。食事する場合は、先に飲み物→食べ物で注文します。(もしくは、まず飲み物を伝えて、その後さらに食べ物を決めて、飲み物の到着時に伝えても良いです。) 食事の場合は、ちゃんとテーブルクロスをひいてくれるところもありますよ。



もちろんウィーンのグラスにも目盛りが入っています。(これはちょっと飲んだあとですね。☺)



この日は夜遅く到着して手っ取り早く(でもしっかりと)何か食べたかったので



ポテトのチーズグラタンを頼みました。サラダは付け合せです。ウィーン名物シュニッツェルやグーラーシュはもちろん、本日のお勧めとか季節の食材を使ったメニューもあって、レストランとしてもなかなかイケてます。

食事が終われば、デザートかコーヒーで。



これは Melange (メランジェ: 泡立てたミルクをいれたコーヒー。本当は「メランジェ」ですが、ウィーンの人にはなぜかフランス語風に「メラーアンシュ」と発音します。) です。ただ、日本で「ウィーンナーコーヒー」とわれるコーヒーの上に生クリームをいれたものは Einspänner (アインシュペナー) という名前で、コーヒーカップではなくてグラスに入って登場します。どう違うかは一度試してみてください。

全て終われば、担当のウェイターさんを探して、お会計してもらいます。近くにいれば「Herr Ober! : ヘア オーバー！」と呼びかけて、Zahlen, bitte! (ツァーレン・ビッテ!) と声を掛けるか、そうでなければ目が合った瞬間を逃さず、手で空中に文字を書くようなジェスチャーをします。大体はお客さんの動向をひそかに見守っているので、いつまで待っても見つからん! という事はないです。

そうするとレシートと大きなお財布を持ってウェイターさん登場。

お金を払って、Trinkgeld (トリンクゲルド: チップ) をテーブルに置いて帰ります。チップは端数程度で大丈夫 (たとえばコーヒーが 3.5€ なら 4€ など。あとはサービスの満足度で決めてよいと思います。)

あとお作法(?) はほぼ同じですが、Konditorei の場合、だいたい入り口に美味しそうなケーキがずらっと並んでいます。選ぶと番号の入った紙を渡されて、テーブルでお姉さん (Kafeehaus はだいたい男性なんですが、Konditorai ではだいたい女性です。) に渡すところや、ただ「これを」と言うだけであとはテーブルについて待っていればそのケーキが届くという驚くべきシステムなど、お店によって注文方法が異なりますので、分からないときは、周りの人がどうしてるか、観察してみるのも面白いと思います。



ある日のとあるコンディトライで。日本ではケーキ屋さんとなると圧倒的に若い女性のもですがウィーンでは、もうちょっと年齢層が上ですね。あと男性はお菓子もお酒も好きが基本なので、やっぱり多いです。男性一人で入っても「浮く」ことがないのもウィーンならではの、ですかね？



ある日のケーキたち。☺ウィーンのケーキはしっかり甘くて美味しいです！

Kafeehaus も Konditorei、いずれにしてもウィーンのカフェ文化(コーヒーの種類もすごく豊富です)はウィーン独自のものです。ウィーンに行かれたら、是非伝統的カフェに行ってみてください。

おいしいコーヒーを飲みながら、ウェイターや他のお客さんをのんびりと観察してみるのも面白いです。なんだか「違う時間」が流れているような不思議な気分になりますよ。☺